

756

756

王母

256

233

特41

756



西王母

三皇五帝は昔より今

聖母まじりて聖母のた

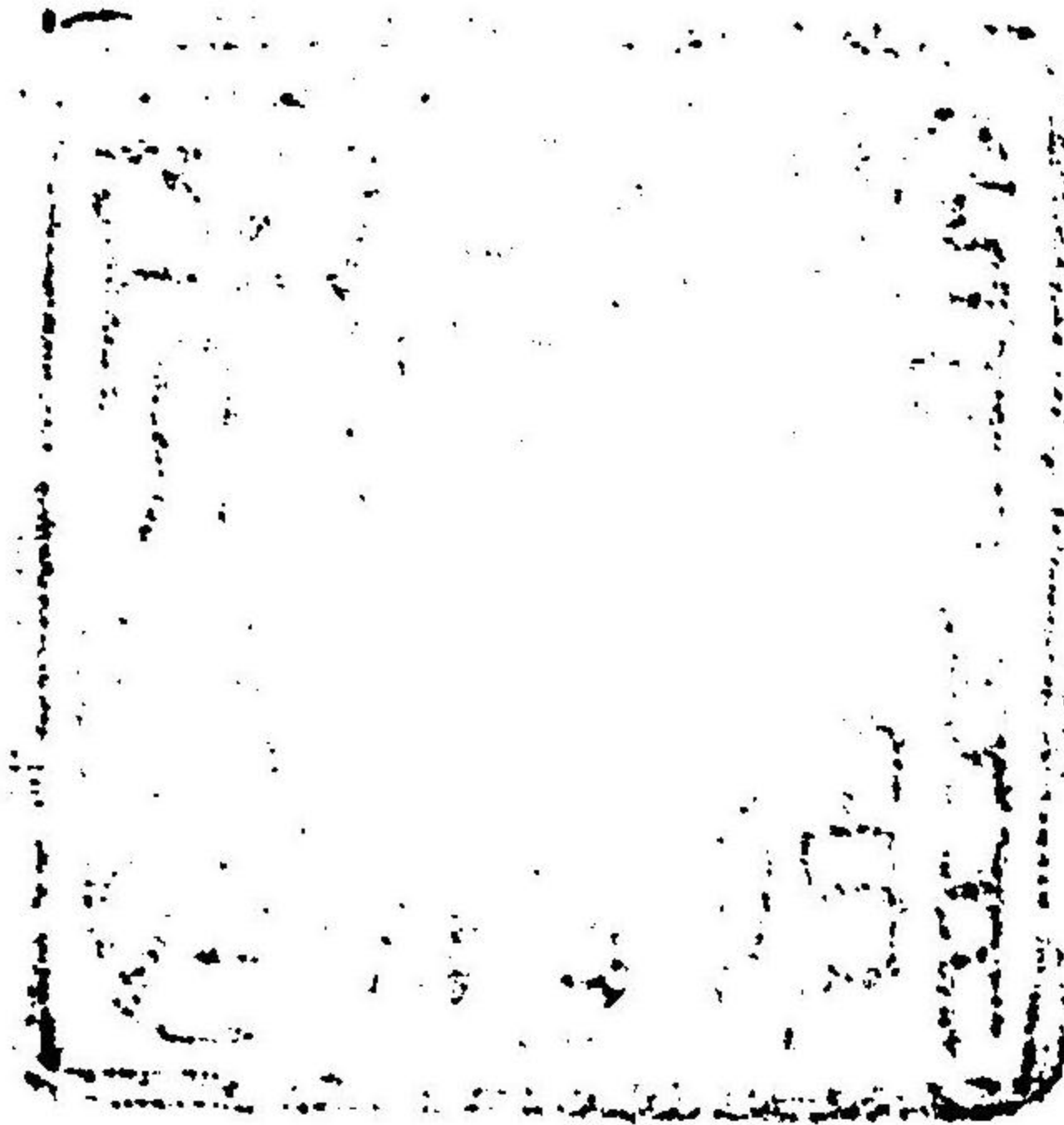
其の威光は日たかき

其の徳は海にまはるに

廣くはまはるに

あまの御魂を

明治
紙2 17
内交



於天よはらる星はまら。首座相雲
家や平戸が戸のさるとあひうちを
さぶさへ入田方れ門邊おむらあまら
市さの金銀珠玉をさまら
きやきやして日夜の勝勢をえあり
けりかたのあひを見城を樂し又
まらあらんく
梅香物りもあまら

たひつら市深なる貴賤まらあり際
まの面自や果物とけしとえて
紫衣國去れの所から昏曇る花
乃紫衣妙あははらるのさうたあふ
時やまらきし二千年はあはらる心ま
まら志のまらさうとあやいたや
君よあまらさうとあやいたや

夢
昔々あるまのそは清くはあはれ福くてもく
際ゆく馬は法乃道子星乃外まきく
うもちまの道は至りてはらまはれ
山會場乃法はま廣まき入の真
あはれきたまはれまきくもはまきく
あはれきたまはれまきくもはまきく
乃依 乃依 夢みまのあはれまきくもはまきく

思 シテ 思ふに平年に記候文なる也記あ
おき今乃所はれまきくもはまきく
あはれきたまはれまきくもはまきく
あはれきたまはれまきくもはまきく
西日母のそはれ シテ 中くはまきく
あはれきたまはれまきくもはまきく

蘭なく城の我こそ西の東の分家よ
先陣りて花の空をまあるん
又おそあがりまは天にぞより
身作呂律の舞とみく
て音楽たのまむわら天津凡雲
乃蘭流のまよく
おとせしむらむれ其能なまむらむ

乃孔雀鳳凰の凌頻依のわら
聲に花まの袖に羽の天津の夜
おとせあまたのまあるむらむ
れりきおくの中に入みえたるハ
西王母のまあるむらむ
くわらまは清夜をちやく
まはるくはさきくまはるく冠は

256

233

複製不許



發行兼
印刷者

京都市上京區三條通美屋町東九角

檜

常之

(特電話二重)
(振替貯金大阪)



訂正者

觀世清



明治廿二年六月廿五日從
 同 世四年一月廿八日迄 出版御届濟
 同 四十三年四月廿五日從
 同 四十四年十月廿五日迄 再版
 同 四十四年二月十五日別製本御届

